

2022年10月吉日

TBWA\HAKUHODO と専門家の有志が制作
自分でもできる災害対策をまとめた「防災アクションガイド」第11弾
『火山噴火への備え』を公開

TBWA\HAKUHODO（本社：東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：今井明彦）と FUKKO DESIGN（本社：東京都渋谷区、代表理事：河瀬大作）は、火山が噴火した際にどのような対策をすればよいのかをまとめた『防災アクションガイドー火山噴火への備え』を発表しました。

火山噴火への備え
火山現象とその影響・対策

火山が噴火すると、噴石や溶岩流、火砕流、降灰など、いろいろな「火山現象」が起こります。火山現象ごとに移動速度や影響範囲が異なるため、それぞれどのような特徴があるか知っておきましょう。

災害をもたらす火山現象

大きな噴石
火山噴火で吹き飛ばされる岩のかたまりが、火口から数km程度以内に落下。山に近づかないよう注意。

火山ガス
火口などから放出される硫化水素などの有毒なガス。目に見えない上、吸い込むと危険です。火口などから離れて安全な場所に避難を。

溶岩流
高温で溶けた溶岩が流れ下る現象。多くの場合は速度が遅く、徒歩でも逃げられる。落ち着いて到達範囲外に避難しましょう。

火砕流
火山の噴出物(火山灰やガスなど)が時速100km以上で流れ下る現象。発生後の避難では間に合いません。危険が高まったら、直ちに到達予想範囲外に避難を。

火山泥流・土石流
火山灰や土砂などが雨や、熱による雪解け水と混ざって流れ下る現象。融雪型に限らず広範囲に被害が及ぶことも。直ちに到達予想範囲外に避難を。

降灰
火山灰が降ってくる現象。見通しが低下するだけでなく、吸い込むと目や鼻、のどや気管支などに影響が出るおそれ。建物内に避難しましょう。

富士山の火山現象と影響範囲

火山現象	火山からの距離		
	山体	周辺市街地	遠隔地
大きな噴石	時速100km以上		
降灰*			
溶岩流		人が歩く速度よりも遅い	
火砕流		時速100km以上	
融雪型火山泥流		冬期のみ ~時速60km	
降灰後土石流*		~時速60km	背後の傾斜地に降灰があった地域

* 火山災害警戒地域の以外の自治体も影響がある

火山噴火ともなう津波も
山が崩れて海に流れ込んで、津波が起きることもあります。過去の火山噴火の被害でも大きな被害が発生しています。

© FUKKO DESIGN JV © AD 協力：吉本充宏（火山研究者）、久保智弘（防災研究者）、及川輝樹（火山研究者）、荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）

TBWA\HAKUHODO と FUKKO DESIGN は、自分でもできる災害対策をわかりやすくまとめた「防災アクションガイド」シリーズとして、今まで「大雨・台風」「天気急変」「冬の荒天」「地震・津波」などの自然災害への備えに加え、「生活再建」「女性向け」など、ニーズに合わせて様々な切り口でガイドを制作・公開してきました。

今回公開する「防災アクションガイド」第11弾では、火山噴火の対策をまとめました。火山噴火は、大雨や台風、地震や津波と比べて注目されづらい自然災害ですが、日本には活火山が111ヶ所もあり、全国各地で被害が発生する可能性があることから、火山噴火時の対策は多くの方々にとって必要だと言われています。近年では2014年に、長野県の御

嶽山で突如大きな噴火が発生し、噴石により多数の登山客が亡くなる大きな被害がありました。それ以外にも各地で多数の被害が発生しており、気をつけなければいけない自然災害と言えます。

火山噴火は火山周辺だけでなく、降灰によって広域に被害が及ぶ可能性があります。富士山が噴火すると、東京を含む関東各地で大きな被害が発生すると言われていています。それ以外にも、溶岩流、火砕流、土石流、火山ガスなど様々な現象がありますが、現象ごとに被害が及ぶ範囲に差があったり、火山によって発生する現象が異なったりすることが多いため、地域独自の対策をしていることがほとんどです。そのため、網羅的にまとめた資料が少なく、結果として火山噴火の際の防災対策が普及しづらかったという現状があります。

そこで今回、様々な被害を引き起こす火山現象を体系的にまとめた『防災アクションガイドー火山噴火への備え』を作る運びとなりました。火山研究者の吉本充宏氏、久保智弘氏、及川輝樹氏にも本プロジェクトにご参加いただき、様々な被害についての対策を慎重に確認しながら、約半年をかけて作成しました。

本ガイドは「①噴火のとき」と「②降灰のとき」の大きく2つの項目に分けてまとめています。「①噴火のとき」では、火山噴火によって発生する様々な現象とその被害、対策を体系的にまとめています。現象の多くは火山周辺で発生するため、地域住民や、登山客などに向けた対策を中心に作成しています。「②降灰のとき」では、降灰の影響とその対策をまとめています。降灰は広域に被害が及ぶため、今まで火山噴火の対策に関心がなかった多くの方々に向けて、被害やその対策をわかりやすく説明しています。

『防災アクションガイドー火山噴火への備え』では、すぐに防災対策を実践できるように、イラストなどを交えたわかりやすい画像を使用しています。これらの画像は、災害時に必要な情報として、SNSで拡散していただくことも視野に入れています。『防災アクションガイドー火山噴火への備え』が火山噴火について今一度考えるきっかけとなり、いざとなった時に、少しでも多くの方々に役立てていただければ幸いです。

『防災アクションガイドー火山噴火への備え』

URL: <https://www.tbwahakuhodo.co.jp/uploads/2022/10/bousai-action-guide-vol11-kazan.pdf>

<詳細>

<噴火のとき>

「火山現象とその影響・対策」

災害をもたらす様々な火山現象や、それらの影響範囲などを説明しています。

「活火山に登山するときの備え」

登山者向けに火山情報の集め方や登山届けの出し方、持ち物などを紹介しています。

「火山噴火の情報を確認しよう」

噴火警報や情報収集の方法を解説しています。

「火山について知ろう」

日本にある火山の紹介や、火山の特性や現状の調べ方、火山防災マップの紹介などをまとめています。

<降灰のとき>

「降灰の影響に備えよう」

降灰した時にすぐに行くこと、状況に合わせて気をつけることを紹介しています。

「降灰予報を確認しよう」

最新の降灰予報の確認の仕方や、降灰量に応じた対策を解説しています。

「降灰時の備蓄と清掃方法」

降灰のための備蓄のリストや、降灰時の自宅での対策や清掃方法をまとめています。

「噴火の情報を確認しよう」

噴火した際の情報の確認方法や、ハザードマップの紹介、さらに、火山全般の説明などがあります。

「富士山が噴火した際の影響」

富士山の過去の噴火から、噴火したら起こる可能性があること、降灰の影響範囲などを紹介しています。

火山噴火への備え

噴火のとき 火山現象とその影響・対策

! 火山が噴火すると、噴石や溶岩流、火砕流、降灰など、いろいろな「火山現象」が起こります。火山現象ごとに移動速度や影響範囲が異なるため、それぞれどのような特徴があるか知っておきましょう。

災害をもたらす火山現象

大きな噴石

火山噴火で吹き飛ばされる岩のかたまりが、火口から数km程度以内に落下。山に近づかないよう注意。

火山ガス

火口などから放出される硫化水素などの有毒なガス。目に見えない上、吸い込むと危険です。火口などから離れて安全な場所に避難を。

溶岩流

高温で溶けた溶岩が流れ下る現象。多くの場合は速度が遅く、徒歩でも逃げられる。落ち着いたら避難範囲外に避難しましょう。

火砕流

火山の噴出物(火山灰やガスなど)が時速100km以上で流れ下る現象。発生後の避難では間に合いません。危険が高まったら、直ちに到達予想範囲外に避難を。

火山泥流・土石流

火山灰や土砂などが雨や、熱による雪解け水と混ざって流れ下る現象。融雪型に限らず広範囲に被害が及ぶことも。直ちに到達予想範囲外に避難を。

降灰

火山灰が降ってくる現象。見通しが低下するだけでなく、吸い込むと目や鼻、のどや気管支などに影響が出るおそれ。建物内に避難しましょう。

富士山の火山現象と影響範囲

火山現象	火山からの距離		
	近い	→	遠い
大きな噴石	時速100km以上		
降灰*			
溶岩流	人が歩く速度よりも遅い		
火砕流	時速100km以上		
融雪型火山泥流	冬期のみ ~時速60km		
降灰後土石流*	~時速60km		背後の傾斜地に降灰があった地域

*火山災害警戒地域の以外の自治体も影響がある

! 火山噴火にともなう津波も 山が崩れて海に流れ込んで、津波が起きることもあります。過去の火山噴火の被害でも大きな被害が発生しています。

© FUKKO DESIGN JVQAD 協力：吉本充宏（火山研究者）、久保智弘（防災研究者）、及川輝樹（火山研究者）、荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災審議官）

火山噴火への備え

噴火のとき 活火山に登山するときの備え

! 活火山に登山する場合には、入念な準備が必要です。事前にどのような情報収集や手続きをして、何に注意して登山をすればよいのか、確認しておきましょう。

火山情報を集めよう

気象庁「火山登山者向け情報」のページで、火山の活動状況や気をつけること、規制状況等が詳しく書かれています。火山のハザードマップ「火山防災マップ」と一緒にチェック。

🔍 気象庁 火山登山者向け

📍 火山情報の発表状況

必要なものを準備しよう

火山の状態や特性を踏まえて、必要な装備などを準備しておこう。

- 火山防災マップ
- スマホなど通信機器
- モバイルバッテリー
- 雨具
- ヘルメット
- ヘッドライト

- 登山地図
- タオル
- ゴーグル
- 非常食・飲料水
- コンパス

登山中も常に情報をチェックしよう

登山中も、気象庁ウェブサイト等から情報収集を。噴気地帯の窪地など、危険な場所には絶対に立ち入らないでください。

もしも噴火したらすぐに避難を

噴火時は、シェルターや、山小屋や岩陰などに一時避難を。噴火が収まったら直ちに下山を。

ヘルメット・ゴーグルを着用し、マスクや濡らせたタオルなどで口を覆ってください。

万が一の捜索などで使われるので、必ず登山届（登山計画書）を作成して提出しよう。最寄りの登山ポストや、自治体に届けよう。

オンライン申請ができるサイトや、書き方を説明するサイトなどもあるのでチェック。

▶ 日本山岳ガイド協会 Compass(コンパス) ▶ 日本山岳・スポートクライミング協会

© FUKKO DESIGN JVQAD 協力：吉本充宏（火山研究者）、久保智弘（防災研究者）、及川輝樹（火山研究者）、荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災審議官）

火山噴火への備え

火山噴火の情報を確認しよう



コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド



噴火のとき



火山のリアルタイムの情報は気象庁ウェブサイトやスマホ・ラジオでも確認できます。いま火山がどのような状況になっているのか、情報を入手して十分に確認しましょう。

噴火警報を確認しよう

噴火警報は、登山者や周辺の住民に対して火山の状況や噴火の発生を知らせる情報です。風水害や地震とはレベル分けも異なるので十分に注意を。情報に合わせて行動できるようにしましょう。

種別	名称	噴火警戒レベルとキーワード	登山者・住民等への影響
特別警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	レベル 5 避難	危険な居住地域からの避難等が必要
		レベル 4 避難準備	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難準備等が必要
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	レベル 3 入山規制	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立ち入り規制
		レベル 2 火口周辺規制	火口周辺への立ち入り規制
予報	噴火予報	レベル 1 活火山であることに留意	状況に応じて火口内への立ち入り規制

出典: 気象庁

スマホ・ラジオなどを使いこなそう

災害時は、刻々と状況が変化します。登山中でも山頂や山道などでは通信できる場合が多いので、スマホやラジオなどで最新の情報を確認して、適切な行動を。

スマホアプリ

NHK ニュース 防災 特報
NHK ニュース 防災 ニュース 全般
Yahoo! 防災速報 火山情報 など
Yahoo! 天気 気象情報

SNS アカウント

NHK ニュース @nhk_news
市区町村や 都道府県

防災行政無線

自治体からの地域向けの情報をチェックしよう。山頂や山道の一部に整備済みとところもあるので、上手く情報入手しよう。

緊急速報メール

避難情報や噴火警報は、自治体からの緊急速報メールでも配信されることがあります。配信設定を事前に確認しよう。

出典: 気象庁

© FUKKO DESIGN JV OAD 協力: 吉本充宏 (火山研究者)、久保智弘 (防災研究者)、及川輝樹 (火山研究者)、荒木健太郎 (雲研究者)、佐々木晶二 (元内閣防災官事務官)

火山噴火への備え

火山について知ろう



コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド



噴火のとき



日本には各地に噴火の可能性のある「活火山」があります。火山によって特性が異なり、起こる現象も違います。気象庁ウェブサイトの「全国の活火山の活動履歴等」で各火山の詳細を紹介しているので、確認してみましょう。

111箇所ある日本の火山

日本全国に111箇所の活火山があります。思いがけないところに火山があることもあるので、住まいや旅行先などの近くに活火山があるかをチェック。



E140° E144° N32° N28° N24°

Q 気象庁 活火山

出典: 気象庁

火山の状況を見よう

火山の最新の情報は気象庁のウェブサイトから確認できます。リアルタイムの画像なども見られるので、事前にチェックしておこう。



富士山 (御来山寺) 2022/05/24 11:42:05

Q 気象庁 監視カメラ画像

出典: 気象庁

火山ごとに特性を知ろう

ひとつに火山といってもそれぞれ起こりうる現象や特性が異なります。登山予定の火山や近くにある火山がどのようなものか、過去にどんな災害があったかをチェック。

御嶽山

2014年9月の噴火で、噴石などにより、死者・行方不明者が63名。



三宅島

2000年6月からの噴火活動により全島民が島外へ避難、4年半断島できなかった。



雲仙岳

1991年6月の火砕流で、死者40名、行方不明者3名、建物被害179棟。



出典: 気象庁


火山防災マップを確認

自治体などが用意している「火山防災マップ」には、各火山で起こり得る噴火現象や、火山現象の範囲、避難場所(シェルター)等について示されています。近くに住んでいる人、登山をする人、温泉に行く人などは確認しておきましょう。



出典: 気象庁

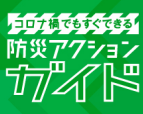
© FUKKO DESIGN JV OAD 協力: 吉本充宏 (火山研究者)、久保智弘 (防災研究者)、及川輝樹 (火山研究者)、荒木健太郎 (雲研究者)、佐々木晶二 (元内閣防災官事務官)



降灰のとき

火山噴火への備え

降灰の影響に備えよう




!
 日本には多くの活火山があり、噴火に伴って火山灰が降ってくる「降灰(こうはい)」が起こります。降灰は火山から離れた場所に住んでいる人にも様々な影響を及ぼすことがあるので、対策を確認しよう。

すぐに行うこと

状況に合わせて気をつけること


目、鼻、のど、肌を守る

健康な人でも、目や鼻、のどや気管支、肌などに影響が出るおそれがあります。降灰時は建物内で安全に過ごし、もし外出するときはマスクやゴーグルを着用し、長袖などで肌の露出を避けるようにしましょう。




自動車や屋外機にカバーをつける

自動車には早めにカバーを装着しましょう。屋外の湯沸かし器やエアコンの室外機には故障を防ぐために食品包装用ラップなどでカバーしましょう。




水や食料などの確認を

電気、上下水道、通信など様々なライフラインが停止、使いにくくなることも。水や食料、懐中電灯、ラジオなどの備えを確認しておきましょう。




自動車の運転をなるべく控える

見通しの悪化で標識が見づらく、スリップの危険性も。運転はなるべく控え、やむをえず運転するときは細心の注意を。




交通影響を踏まえた行動を

路線や航空、船舶などの交通が停止・遅延することも。それぞれの交通情報を確認しながら無理のない行動を。



建物の損傷や倒壊に注意

火山灰がたくさん積もった後に雨が降った場合には、建物が倒壊するおそれがあります。多量の降灰が予想される場合は、頑丈な建物などに避難を。



© FUKKO DESIGN JV QAD 協力：吉本充宏（火山研究者）、久保智弘（防災研究者）、及川輝樹（火山研究者）、荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官事務官）



降灰のとき

火山噴火への備え

降灰予報を確認しよう



!
 火山噴火時や、活動が活発化している火山があるとき、気象庁は「降灰予報」を発表します。降灰の影響範囲や量についての情報を把握できるため、自分のいる地域への影響と対策について確認しよう。

最新の降灰予報をチェック

降灰量に応じた対策を確認

降灰範囲は火山噴火の規模や気象状況によって変わります。気象庁から発表される降灰予報に注意しましょう。



霧島山(新燃岳)の降灰予報
 2022年5月24日8時00分現在 24日15時~18時の予報

降灰予報とは

火山の噴火後にどこにどれだけの量の火山灰が降るかについて気象庁が発表する予報です。



Q 気象庁 降灰予報

降灰予報で使用する降灰量階級と対策		
区分	厚さ	対策
多量	1 mm以上	外出や運転を控える 交通やライフラインへの備え
やや多量	0.1~1 mm	マスクなどで防護 自動車は徐行運転
少量	0.1 mm未満	自宅では窓を開める 自動車のフロントガラスの除灰

多量



多量の降灰時は視界不良に
交通影響に十分注意

やや多量



やや多量でも
傘が必要

少量



少量でも目に
入らないように注意

降灰予報とは別に「噴火警報・予報」も

気象庁では降灰予報とは別に、噴火警報や噴火予報も発表しています。噴火警報と噴火予報は噴石、火災流など火山近くで発生する現象が主な対象です。降灰予報は、噴火によって広い範囲に火山灰が降ることが予想されるときに、発表されるものです。



Q 気象庁 噴火警報・予報

© FUKKO DESIGN JV QAD 協力：吉本充宏（火山研究者）、久保智弘（防災研究者）、及川輝樹（火山研究者）、荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官事務官）



降灰のとき

火山噴火への備え

降灰時の備蓄と清掃方法



! 降灰の影響で、場合によっては長期間外出ができなくなる可能性があるため、家の備蓄を確認しましょう。降灰時は火山灰が入らない対策を、降灰がおさまってからは火山灰の清掃を行いましょう。

家の備蓄

降灰を含む災害に備えて、日ごろから食料品や生活必需品などの備蓄を用意しましょう。

食品まわり

<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> 調味料（しょうゆ、塩など）
<input type="checkbox"/> 主食（レトルトご飯、麺など）	<input type="checkbox"/> 菓子類（チョコレート、スナック菓子など）
<input type="checkbox"/> 主菜（レトルト食品など）	<input type="checkbox"/> 栄養補助食品（ゼリー飲料など）
<input type="checkbox"/> 加熱せず食べられるもの（ナッツ、ドライフルーツなど）	<input type="checkbox"/> 缶詰（サバ、焼き鳥、果物など）

生活用品

<input type="checkbox"/> 生活用水（手を洗うなど、飲む以外にも水は必要）	<input type="checkbox"/> 使い捨て箸・スプーン
<input type="checkbox"/> 救急箱	<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー
<input type="checkbox"/> 持病の薬・常備薬	<input type="checkbox"/> トイレトレーニングペーパー
<input type="checkbox"/> ライター	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
<input type="checkbox"/> 乾電池+懐中電灯	<input type="checkbox"/> 食品包装用ラップ
<input type="checkbox"/> モバイルバッテリー	<input type="checkbox"/> カセットコンロ・ガスボンベ
<input type="checkbox"/> 梱包用のガムテープ	<input type="checkbox"/> 生理用品

性別や年齢によって異なる必要なもの

降灰対策用品

マスク ゴーグル ヘルメット 車などのカバー

火山灰の対策と清掃方法

火山灰は機器の故障の原因にもなるので、しっかり対策しましょう。

降灰前の対策

- ドアや窓を閉める
- 車や室外機などにカバーをする
- 排水溝を掃除する

清掃作業時のポイント

- 必ず防塵マスクとゴーグルを着用
- 灰は舞うのでほうきではかず、水で湿らせてスコップですくう
- 火山灰はつまりやすいので、排水溝には流さない
- すべりやすいので、安全のために2人以上で
- 火山灰は丈夫なビニール袋に入れ、自治体の指示に従って処分

屋内を清掃するときのポイント

- 屋外を十分に清掃してから、換気をして屋内を清掃
- カーペットや家具の表面に念入りに掃除機をかける
- 濡れた布などで拭く場合、傷がつかないように注意

© FUKKO DESIGN JV QAD 協力：吉本充宏（火山研究者）、久保智弘（防災研究者）、及川輝樹（火山研究者）、荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官事務官）



降灰のとき

火山噴火への備え

噴火の情報を確認しよう



! 日本には各地に噴火の可能性のある「活火山」があります。火山によって被害も異なるので、スマホなどで情報を入手したり、ハザードマップを確認したりしましょう。

最新の情報を入手しよう

火山噴火時は、刻々と状況が変化します。スマホやテレビ、ラジオ防災部線なども使い最新の情報を確認して適切な行動を。

スマホアプリ

-  NHKニュース防災 臨時
-  NHKニュース 全般
-  Yahoo!防災速報 避難情報など
-  Yahoo!天気 気象情報

SNSアカウント

-  NHK ニュース @nhk_news
-  自治体 市区町村や 都道府県

🔍 気象庁 各火山の活動状況

火山について知ろう

111箇所ある日本の火山

日本全国に111箇所の活火山があります。住まいや旅行先などの近くに活火山があるかをチェック。沿岸部の火山や火山島、海底火山が噴火している場合には、津波が起こることもあるので確認。



様々な被害をもたらす火山現象

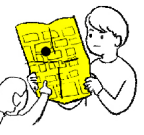
火山災害をもたらす現象は、大きな噴石、火砕流、土石流など様々です。災害ごとの対策を調べましょう。噴火のしくみや火山情報などについての詳細は気象庁ウェブサイトをチェック。



🔍 気象庁 火山 知識

ハザードマップを確認しよう


各火山の災害の種類ごとにハザードマップを自治体などが公開しています。近くに住んでいる人、登山をする人、火山近くの温泉に行く人は検索して確認を。



! 風上側（多くは西側）にある火山が噴火をした場合は降灰の影響を受けやすいです。

🔍 気象庁 火山 知識

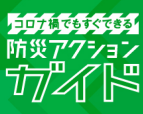
© FUKKO DESIGN JV QAD 協力：吉本充宏（火山研究者）、久保智弘（防災研究者）、及川輝樹（火山研究者）、荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官事務官）



降灰のとき

火山噴火への備え


富士山が噴火したときの影響



! 富士山は活火山のひとつで、もしも噴火した場合にどのような影響があるか検討されています。特に降灰は首都圏などの広範囲に影響があるといわれているため、富士山噴火時に何が起きそうか知っておきましょう。

富士山の過去の大噴火

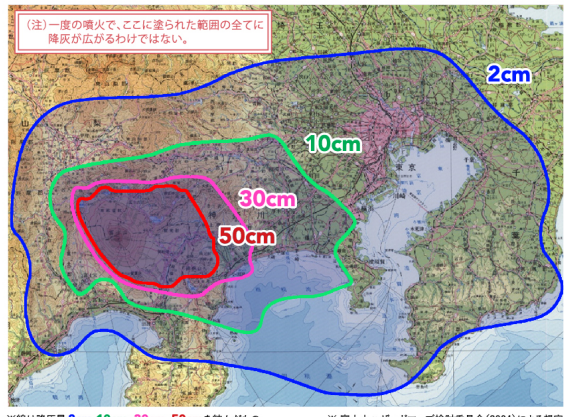
富士山は1707年(宝永4年)に大噴火し、現在の東京都や千葉県にまで降灰がありました。いつ噴火するかの予測が難しく、宝永大噴火に準じたハザードマップが作成されています。



どこまで降灰の影響があるか

「降灰の可能性マップ」では、宝永噴火と同程度の規模の噴火が起こった場合、東京都心を含め2cm以上の降灰を想定しています。噴火の規模や気象状況によっては他の地域も影響しうることには注意が必要です。

(注) 一度の噴火で、ここに塗られた範囲の全てに降灰が広がるわけではない。




※線は降灰量 2cm, 10cm, 30cm, 50cm を結んだもの
※宝永噴火と同程度の噴火が起きた場合を前提としています


※ 富士山ハザードマップ検討委員会(2004)による想定

首都圏で起こりうること


鉄道や航空の影響




降灰5mm以上で運行見合わせ




降灰1mm以上で航路の閉鎖




長期停電
火力発電低下で
停電多発



広域断水
取水制限で
広域断水



孤立
物流が混乱、
生活物資や食糧が
不足して孤立



経済活動停止
除灰に
時間がかかり
都市機能が停止

出典: 気象庁

© FUKKO DESIGN JV QAD 協力: 吉本充宏 (火山研究者)、久保智弘 (防災研究者)、及川隆樹 (火山研究者)、荒木健太郎 (雲研究者)、佐々木晶二 (元内閣防災官事務官)

【プロジェクトリーダー TBWA\HAKUHODO 兼 FUKKO DESIGN 木村充慶 コメント】

「火山噴火への備え」の制作は6ヶ月ほどかかりました。今までで一番時間がかかったかもしれません。制作にあたって、わかりやすい火山対策の資料がないか探したのですが、なかなか見つかりませんでした。その理由は調べながらすぐにわかりました。そもそも火山には様々な現象があります。噴石、降灰、溶岩流、火砕流、土石流、火山ガスなど…たくさんあります。しかも、被害範囲もバラバラで、対策もそれぞれ異なります。さらに、火山ごとに発生する現象が違います。そのため、火山ごとに専門家がおり、火山ごとに研究がされていることが多いです。火山ごとに研究し対策するのはとても意味があると思いますが、それだけではなかなか一般向けに火山噴

火の対策が普及しないのでは考え、可能な限り共通する内容を整理して制作しました。まだまだ一般化していない火山噴火の対策が少しでも広がることを願っています。

プロジェクトメンバー

プロジェクトリーダー：木村充慶 (TBWA\HAKUHODO/一般社団法人 FUKKO DESIGN)

アートディレクター：伊藤裕平 (TBWA\HAKUHODO)

デザイナー：神之田裕貴 (TBWA\HAKUHODO)

専門家：佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）、明城哲也（NPO 法人全国災害ボランティアネットワーク<以下、JVOAD>事務局長）、古越武彦（JVOAD 事業部事業担当）など

火山専門家：吉本充宏（山梨県富士山科学研究所 富士山火山防災研究センター 主幹研究員）、久保智弘（山梨県富士山科学研究所）、及川輝樹（産業技術総合研究所 地質情報部門 火山活動研究グループ）

TBWA\HAKUHODO（TBWA 博報堂）について

2006年に博報堂、TBWA ワールドワイドのジョイントベンチャーとして設立された総合広告会社です。博報堂のフィロソフィーである「生活者発想」「パートナー主義」とTBWAがグローバル市場で駆使してきた「DISRUPTION®」メソッドを中心とした独自のノウハウを融合。質の高いソリューションを創造し、クライアントのビジネスの成長に貢献します。「DISRUPTION®」は既成概念に縛られず、常識を壊し、新しいヴィジョンを見いだすTBWA\HAKUHODOの哲学です。マーケティングに限らず、ビジネスにおけるすべての局面でディスラプションという新しい視点を武器に事業やブランドを進化させるアイデアを生み出します。<https://www.tbwahakuhodo.co.jp>

FUKKO DESIGN について

一般社団法人 FUKKO DESIGN は、「民間ビジネスの力を結集して新たな”復興”をつくる」を活動テーマに、平時のときから行政、民間企業、メディアとのネットワークを構築し、有事の時にすぐにサポートする体制をつくるほか、有事の際の被災地に関する情報発信の支援、復興タイミングにおける地域の魅力発信、企業のマッチングサポート支援などをトータルにデザインしていく団体として活動していきます。<https://fukko-design.jp/>